

瀧本和子さん(前田・八和木)



平成8年、母親のけがをきっかけに家族と九州からUターン。震災後に定年退職し、今夏、手入れを続けてきたブルーベリーの出荷を始めました。

南相馬市に避難して、平成24年に定年退職を迎えました。退職したら村でやりたかったことができなくなつて、さて何をしたらいいか：と始めたのが、布製のバッグづくりでした。一通り習った後は、自分でデザインをするのが楽しくなりました。それがつるし雛やウサギの人形づくりに発展し、人からも頼まれて、すぐたくさんつくりましたね。その後は、村の道の駅で販売したり、手芸教室の講師をさせてもらったり、ありがたいことだと思っています。

植えたブルーベリーや梅やプラムがありました。私自身もブルーベリーに興味があり、村の研究部会にも参加していました。年月が経ち、実がたくさんなるようになっていきました。避難の中も通って手入れを続けてきました。父が亡くなり、母も高齢になって、避難先での母との暮らしが続いています。そんな中でも「動ける」のは、主人が協力してくれるからです。互いによく話し合っています。今年初めて、東京のジェラート店にブルーベリーを出

荷できるようにりましたが(P12参照)、3日に1回の出荷も、主人が箱詰めや発送を手伝ってくれます。「やることがない」ことほどさびしいことはない。「やることがある」から生きられると思つています。好きなことだから続くし、輝ける。仕事があるのは、ありがたいことです。そこにいくらかでも収入があれば、なおいいですよね。マイナスをプラスに。大変なことなくして、うまくはいかない。紆余曲折が、進歩や良い結果を生んでいきます。計画を立てて取り組むのが好きな私は、時々、これからの村のことも考えます。大震災に巻き込まれた村だからこそ、老人がいきいきと暮らせる村を目指してはどうでしょう。今ある土地や建物を生かして老人ホームを増やし、元気な人が共同生活する独居エリアもつくつて、そこで働く人を集められるよう、勤務条件や福利厚生をアップして：。自分達が入りたい施設を目指せし、村外の人にも感謝される事業になるのではないのでしょうか。

こころのぽけっと

「もったいない」と「までいライフ」

原発事故以来、次のような新聞広告が何度か出ていました。「地球が2つ必要です」というタイトルで、私たちが今の暮らしを続けると2030年には地球2つ分の資源が必要になると言われています。1つしかない地球でまかなえる地球にちょうど良い暮らしを一緒にはじめませんか・・・と書いてありました。これだけ物が豊富にある世の中に住んでいながら「もったいない」という内容だと思えます。原発事故から学ぶことは、暮らし方を少しづつ、つつましくして、次世代に払わせる「つけ」を出来るだけ少なくしていくことが大切だということでしょう。

震災の7、8年前にマータイさんというケニアの環境副大臣が日本には「もったいない」という素晴らしい言葉があると行って大きな反響をよんだことがありました。まさに「地球が2つ必要です」のことを言い当てていたのです。私たち日本人に「もったいない」の言葉の大切さを改めて知らせてくれた訳です。

その時に、私は飯館村が進めている「までいライフ」とほぼ同じ考え方であるなど、意を強くした記憶があります。

ものが溢れかえる世界では、「もったいない」という考え方は存在しません。日本人の美德でもある「もったいない」の心や「までいライフ」を、原発事故8年目にした今こそ、もう一度じっくりと考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

平成30年8月20日 飯館村長 菅野 典雄



誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
齋藤 あさひ ちゃん	博史・愛子	白石
高野 美涼 ちゃん	敬・智子	前田・八和木
磯山 紅楼 ちゃん	一成・美幸	大久保・外内



すくすくと元気に育つてね

ひとのうごき		7月1日~31日までの人口動態	
(平成30年7月31日現在)		◆◆人口動態◆◆	
人口	今月(前月比)	転入	6人
男	2872人 (-1)	転出	7人
女	2880人 (-1)	出生	4人
備計	5752人 (-2)	死亡	5人
世帯数	1818戸 (+8)	(住民基本台帳人口)	



結婚おめでとう

氏名	出身地
山崎 晃枝	比叡
杉本 愛	白河市

いつまでもお幸せに



おくやみ

氏名	年齢	行政区
平野 敏朗	72	草野
佐藤 仁	69	上飯樋
齋藤 節男	86	深谷
遠藤 宗平	88	前田・八和木
堀井 至孝	88	草野
吉田 ミチ子	78	草野
高橋 幸清	85	前田・八和木
八巻 芳子	65	草野

(7月21日から8月20日までに届け出のあったものを掲載) ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

おしえてくんちえ! 堀先生

心も自分も大切に。

村民の皆さんからの相談に、堀先生がお答えします

相談 堀先生

自分の正直な思いを相手に伝えることが、難しいのですが。

人間関係を悪くさせないようにものを言うことは、とても難しいことです。言わなければ、その時には嫌な思いをしないですみます。しかし、言わないで、苦しい我慢を続けなければならない、ということもあります。本当にものを言わなければならない時は、相手が余裕をなくしてしまったつらい事情のことを想像し、共感する気持ちをもちましよう。その上で、相手に自分の要望を伝え、自分のつらさにも共感してほしいとお願いしてみましよう。そして、もし話を聞いてもらえたら、深く感謝しましよう。



精神科医 堀有伸先生 ほりメンタルクリニック院長

「心の健康相談」お問い合わせは 健康福祉課健康係 (いちばん館内) ☎0244-42-1638まで